

第1回長野県産業イノベーション推進本部会議 要旨

日 時：平成25年6月11日（火）

10時45分～11時40分

場 所：長野県庁 本館棟3階 特別会議室

出席者：阿部知事、加藤副知事、伊藤教育
長、久保田危機管理監兼危機管理
部長、原山企画部長、岩崎総務部
長、清水健康福祉参事兼健康福祉
政策課長、塩谷環境政策課長、太
田商工労働部長、野池観光部長、
中村農政部長、塩入林務部長、北
村建設部長、岩嶋公営企業管理者
職務執行者企業局長

<知事挨拶>

- ・産業イノベーション推進本部会議第1回ということで一言挨拶をする。
- ・先般自民党の県議団からの要請もあり、また、しあわせ信州創造プランで「貢献」と「自立」の経済構造への転換ということを政策推進の基本方針の最初の柱に掲げている中で、全庁的な体制をしっかりと作り、長野県の産業を再生させ、新しい方向に導くということで、この本部を設置することとした。
- ・県経済全体としては上向きだが、有効求人倍率は0.8の前半で思ったように上がっていない。また全国とも水をあけられてしまっている。
- ・政府はアベノミクスということで、経済政策3本の矢で取組んでいるが、実体経済をどう元気にしていくかということ考えた時、国にしっかり取り組んでいただくことも必要だが、都道府県レベルでやらなければいけないこともたくさんあるし、また、地方公共団体が国の施策とも連動して独自の取組みを行わなければ、地方の経済は本当の意味での元気を取り戻すことはできない。
- ・本部会議においては、(本当は名札の何とか部長というのは取っ払ってもらいたい) 何とか部長という立場ではなく、県の幹部職員ということで、それぞれ協力・連携して、人の部の話でも発言できるといった組織にしていかなないと、本当の意味でのイノベーションはできないと思っている。
- ・規制改革の話になると「規制する立場」と「変えていく立場」と両方でてくる。全ての規制が必要ないとは思わない。規制緩和には少し違和感があり、規制改革の方がよいと思う。規制を弱めた方がよい場合と強めた方がよい場合があるかもしれない。そのようなことを含めて、それぞれの所管をしていることについてはしっかり検討してもらおうと同時に、一歩離れて自分の所管の部分について違う角度から見たらどうなのか、または全庁的な見地から見て、他の部局がやっていることに対しても、このようなイノベーションが必要なのではないかという広い視点で、各メンバーには本部に参加してもらいたい。
- ・3つの視点「信州産業の再生」、「次世代産業の創出」、「国際戦略の拡充」を出しているが、是非スピード感を持って取組んでいてもらいたいと思う。
- ・イノベーション推進本部ということで、横文字を使っているが、新しいアイデアを持って、社会的に意義のある新しい価値を創造していく、そういう中で大きな変革をもたらしていく、それが私としてイノベーションに込めている思いであるので、なんとなく今までの延長線上でお茶を濁すということがないようにしっかり取組んでいてもらいたい。
- ・様々な課題があるが、しあわせ信州を作っていく上では、足腰の強い産業経済の構築が不可欠だと思っているので、是非その様な姿勢で取組んでいてもらいたい。
- ・本日第1回目ということで、予算編成等に併せて、当面来年の予算編成が本格化する秋口までに4回本部会議を開いて集中的に議論していきたいと思っているため是非よろしくお願ひしたい。

<議事（事務局から資料説明）>

<国の成長戦略（素案）を活用できる取組みについての検討結果（各部署から資料説明）>
（企画部）

- ・日本産業再興プランの中には世界最高水準の IT 社会の実現ということで6項目掲げている。当然連動・活用すべきことを前提として、企画部として適当なものとして考えたものがオープンデータの利活用。
- ・成長戦略の世界最高水準の IT 社会の実現に係るものについては、企画部としては将来的に当然関わっていくと考えているが、その中で2つ必要だと思っている。一つは各分野における IT 活用策を各部署と共に民間ベンダーも交えた研究会を開催するので、その中で実現、検討していきたい。それから実際にそれを具体的な施策におとした場合には、当然予算の問題がある。従って、IT 投資を実現するための推進管理体制をどうしていくかということも、来年の組織改正も視野に入れながら検討していきたい。

（健康福祉部）

- ・成長戦略の中で2つある。一つは日本産業再興プランの中で、女性の活躍の推進がある。待機児童加速化プランの話であるが、子育ての負担軽減ということで、6月にも補正をするが、切り口は違うが結果的にはつながる話しということで推進していく。
- ・もう一つは戦略市場創造プランの中のテーマの一つに健康寿命の延伸がでてきているが、その中にポイントが3つあり、健康寿命の延伸自体は県の5か年にもあるし、健康福祉部の計画でも掲げている目標とも一致しているが、成長戦略の中では3つのポイントがあり、一つは効果的な予防サービスや健康管理を充実させることで健康に生活して老いることができる社会ということを行っている。私どもは世界トップクラスの健康長寿国だと思っているが、何故そうなのかということ进行分析して、施策に反映していく取組みをやっていこうと思っているので、方向性は一致している。色々出てくるので例をいくつかあげるが、予防・健康管理の推進、医療・介護情報の電子化が例としてあげられる。
- ・戦略創造プランでもう一つあり、病気やけがをしても、良質な医療・介護へのアクセスにより、早く復帰するといったことも方向性は一致している。例は再掲となっている医療・介護情報の電子化といったことがあると思っている。
- ・健康寿命関連でもう一つポイントがあり、医療・介護そのものではなく、関連産業を活性化させるというのがあり、そこは商工労働部の方で出てくると思っている。

（環境部）

- ・細かく拾ったので項目は多いが、大きく分けて2点。
- ・一つが日本産業再興プランでコンパクトシティの実現という部分があり、もう片方が戦略市場創造プランで、テーマ2として、クリーンで経済的なエネルギー需給の実現という項目がある。これがまさに環境部で進めている自然エネルギー関係の仕事が入っている。例えば2番では自然エネルギー政策パッケージと関係があるが、成長戦略の中では地域主導の再生可能エネルギーの導入を民間資金も呼び込みつつ促進すると記述してある。
- ・現在成長戦略の段階では、具体的な施策、何をやりますよといったことが出ていないため、今後国の補正予算なり、来年度予算、規制緩和の中で出てくる施策の中では必ず環境部で進めている自然エネルギー政策パッケージで活用できるものも出てくると思うので、その段階で連動・活用していきたい。

（商工労働部）

- ・8点ある。
- ・1点目は企画部の説明と重複する。
- ・2つ目は課題の一つである個人事業主の後継者とのマッチングの説明をしたが、国の方でも事業引継ぎ、事業承継支援がでてきているため、取り込んで何かできるのではないかと考えている。
- ・グローバル展開については、進出前から進出後まで一貫通貫で支援する体制整備ということであるため、県の国際戦略との連動ということで、今後強化の可能性があると考えている。
- ・メディカル関連産業については規制改革との関係で今後進めていきたい。
- ・機能性・高齢者向食品は「しあわせ信州食品開発センター」との連動ということで、高付加価値化を図っていけると考えている。
- ・水質保全については先ほどの説明のとおり。

- ・次世代交通についても航空宇宙プロジェクトや特区申請の関係で加速できるのではないかと考えている。
- ・国の方で多様な働き方の実現ということで、県でも5か年計画の雇用社会参加のプロジェクトで新しく研究会を発足する話があるため、同様な形で連動していけると考えている。

(観光部)

- ・5点ある。
- ・一点目は文化財を観光資源として活かして内外に発信していくということで、長野県の強みの部分であるため、国の方向性と連動して取組んでいきたいと考えている。
- ・2点目は外国人旅行者の滞在環境の改善ということで、外国人目線に立って、多言語対応、表示や案内機能の充実に取り組んでいく。国では全国共通に使えるガイドラインを作成するというところだが、県ではこれを踏まえて実体のある取組みにしていこうと考えている。
- ・3点目は観光資源の発掘とそれを活かした旅行商品化、そして何より地域観光を担っていく人材の育成、これは現在長野県で取組んでいるが、こういった方向性と、もう一つは宿泊施設の情報提供制度、宿泊施設について外国の方が来たときにも、どのような機能を持った宿泊施設なのかというのを客観的に分かる仕組み、こういったこともこれから検討されていくとのことであるため活用していきたい。
- ・4点目は新しい分野のツーリズムということで、環境、農業、ものづくり、スポーツなどと観光の融合は長野県でも積極的に展開していきたい。
- ・5点目はMICEで国際会議やイベントの誘致。長野県ではリゾートMICEと言っているが、長野県ならではの自然の中でゆったりと滞在して、会議を行っていただくといった方向性を打出していきたい。

(農政部)

- ・農業関係については、国の農林業政策の柱とほぼ並行した形で作られている。
- ・一番目の担い手への農地利用集積、耕作放棄地対策については、特別の機構を法制度を変えて作るということが検討されているということで、長野県としては「人・農地プラン」ということで各地域でどのように農地を使うのかということと耕作放棄地を含めて検討している。この結果を農地の権利の付け替え作業期間として、農業開発公社が現段階では想定されている。耕作放棄地対策は本県としても重要なことなので、具体的な稼働体制をどうするのかについては早急に検討する。
- ・2番目はバリューチェーンの構築ということで、国の農林業政策の中では位置付けられているが、まさしく6次産業化であるため農業者のスタンスだけではなく、商工労働部でやっている農商工連携と農業者の付加価値化をどのように結び付けていくのかということと、具体的に進めていくということが言われている。これは6月補正もからめ、商工労働部の試験研究機関の拡充、商工、観光、農業、林業の各分野の関係団体、金融機関、研究機関を網羅した推進体制、タスクフォースを至急に作り上げて、現場段階における発想の段階から商品の開発までの具体的な支援体制を作っていきたい。
- ・3番は2番に関係する技術開発の必要性が言われている。中央の研究機関、民間の研究機関、都道府県の研究機関の役割として、オリジナルなもの開発機能については6月補正で取組んでいきたい。
- ・4番も同じで、ゲノムの関係。
- ・5番は需要のフロンティアの拡大というふうに位置付けられているものの中から引っ張られている。農産物の輸出の関係。国の方では、品目別、国別輸出計画を作るということと強く言っているが、これは主要な米の加工品、牛肉、高級な果実などに限定されてきて、産地間で結ぶということになるが、長野県の全体の施策上、JAPANフードの一つの中に信州産や長野県産が盛り込まれ、消えてしまっよいかということもあるので、実際の輸出の促進体制についてはこれから検討していかなければならない。

(林務部)

- ・連動・活用できる取組みとして4点掲げたが大きくは二つに分かれる。
- ・一つは日本産業再興プランで、プレミアム地域ブランドの創出に関連して、長野県の代表的な樹木であるカラマツの強さ、色合いなど他のものより優れている部分を活かしながら、修正材や内装材などの技術開発を進めながらブランド化、そして需要拡大を図る取組み。
- ・2、3、4は一緒に、戦略市場創造プランということで、木質バイオマスエネルギーとい

うことで、再生可能エネルギーの活用、それと木材需要創出といった2つをセットとして、一緒に取り組むことで、新たな利用開発、需要拡大につなげ、一步進んだ産業になるような取り組みができると思っている。

(建設部)

- ・安全で強靱なインフラを低コストで実現される社会というテーマ。現在本県では橋梁をはじめとする各種施設の長寿命化計画策定を進めているが、今後、国等によりインフラデータの把握、蓄積、信頼性・経済性の高い点検・補修技術の開発が進めば、最適な時期に最小のコストで補修ができる、トータルコストの縮減が図られ、安全性の向上、効果的・効率的な維持管理が可能となると考えている。

(教育委員会)

- ・成長戦略で若者・人材力の強化が謳われているが、キャリア教育を始め、産業界と連携しながらイノベーションを創出できる人材を育成していきたい。
- ・県レベルでは産業界と連携してキャリア教育支援センターを設置しているが、これらを踏まえながら地域においても産業界と学校が連携するようなプラットフォームの構築を進めていきたい。
- ・専門高校の生徒の充実という、現代化、設備面も含めてしっかり対応しながら産業界の期待に応える人材を養成していきたい。
- ・外国語教育の充実、グローバル人材の養成。当座は小学校、中学校、高等学校それぞれの段階での教員の養成等に取り組んでいくが、国ではスーパーグローバルハイスクール構想も動き出しそうなので、これらの動きを踏まえて本県からもグローバル人材の輩出に向けた高等学校の基礎を培っていきたい。
- ・ICTを活用しながら、しっかりとした人材を養成するというので、まずは県立高校をモデル校にしながらICTを活用した授業の実施などに早急に取り組んでいきたい。

<意見交換>

(健康福祉参事兼健康福祉政策課長)

- ・検討事項の中で気になっているのが、メディカルツアーの旅行商品開発がどういうものを、どの範囲でやるのか分からないが、ポイントの一つとしては、医療も介護も似たようなところがあるが、資源である人材が不足している現実があるので、医療以外のところへそれを割くということになれば、どこまでそれができるのかという議論があると思っている。それは注意が必要。
- ・シニアケアコミュニティについては、確かに首都圏、都市部の高齢化がどんどん進むため、大きな市場にはなるが、これも似たように人材をどのように確保していくのかというのが議論のポイントとなる。
- ・メディカルツアーというか国際戦略の方かもしれないが、観光部の話になるが、例えば文化財が観光資源だから、それを使って国外からお客さんを呼んでくるのはそのとおりだが、観光資源という感覚が違うが、長野の場合は健康長寿であるため、例えば来月ソウル大から50人ぐらいお客さんが来るが、毎年やっているが、その様なものを商品化して、大学だったり行政だったり医療担当者だったりを呼び込んでくることはできるかなと感じた。

(観光部長)

- ・「メディカル」を狭義に訳して医療とツーリズムを掛け合わせるということもあるが、もう少し広く健康ツーリズムというように考えて、長野県で成長分野として芽が出ている森林セラピーとか農村セラピーとか、医療というよりも例えば医療系の人材、看護師や保健師をからめて、ホテルで健康チェック、あるいは長野県らしい健康長寿の源になる食を食べながら、幅広いツーリズムが考えられるのではないかと考えている。

(林務部長)

- ・森林セラピーは森林に行って「いい気持ちだな」ということ+医療機関と連携して、例えば人間ドックと組み合わせるとかといったことが実際進んでいるので、メディカルツアーという言い方を大きくは森林セラピーも含めながらやっていけばいいのかなと思う。森林セラピー基地というのがあって、それぞれ独自の取り組みを行っているのだから、これらを広めていきたい。

(商工労働部長)

- ・健康長寿の関係でいえば、今回「しあわせ信州食品開発センター」、ここでは一つは6次産

業化というものの支援があるが、もう一つは長寿健康を志向する企業の手助けを考えているので、各部連携してこの問題は今後考えていきたい。

(教育長)

- ・イノベーション人材育成という観点でいえば、高校以下を教育委員会は担当しているが、国の計画をみるとイノベーション人材といえば高等教育以上の影響が大きい、大学政策が大きいという部分がある。検討課題ではインターンシップの推進や農業大学の機能強化があるが、それぞれのパーツでは大学との連携が視野に入っているようであるが、人材育成という観点で県内大学、県立大学も含めて、県内大学を視野に入れながら、短期だけではなく中長期も含めて人材を恒常的に輩出していくことも必要だと考える。

(企画部長)

- ・産業イノベーション推進本部は方針1の3つのプロジェクトを中心としてということなので、人材育成については円卓会議における提案や検討結果を本部にフィードバックするといった体制でやっていきたい。

(知事)

- ・検討事項はこれで全てということではないという理解でよいのか。
→よい。(商工労働部長)
- ・検討事項は今出た議論も踏まえて整理してほしい。
- ・大学の話は県立大学の話はずっとしてきている。私大とも議論する中で高等教育全体の振興をしっかりやっていかなければいけない。円卓会議の話も含めて人材育成の所はしっかり位置付けていかなければいけないというふうに思っている。
- ・各部で成長戦略の中で関係性がありそうな部分も順次説明してもらったが、全体として攻めの姿勢で臨んでほしい。今までの県のスタンスは、よく議会答弁で気になっているのは「市町村の動向を見極めながら」、「国の動きを見据えながら」。見据えたり見極めるのはよいが、自分たちの主体的な動きがあって、それに対するリアクションを期待するような話でないと、単にほっておいて国が右と言えば右という話ではないだろうかと思っている。国も成長戦略を「しゃかりき」になってやらなくてはいけない状況なのは間違いない。アベノミクスを失敗させるわけにはいかないだろうというふうに、国もこの機会にしっかりと経済成長の軌道に乗せなければいけないというところは認識しているはずなので、むしろ我々はもっと積極的に提案しなければならない。国がこうしてくれたからこうしますという待ちの姿勢、消極的な姿勢は徹底的に改めてもらいたい。
- ・地方分権の話はずっと言っているが、進まない原因は色々あるが、待ちの姿勢が地方分権を阻害しているというのが私の感覚。
- ・国は間接情報しか入らない。我々は直接的に市町村だったり、事業者の人たちから一杯情報が入るので、このメンバーには当事者の人達とか現場の声をしっかり拾ってもらって、その中で県としてやるべきこと、国に対して今だからこそしっかり言っておかなければいけないこと、整理をしていってもらいたいと思っているので、是非そのような姿勢で取り組んでいただきたい。
- ・連動・活用できる取組みのところで、企画の関係はITの話は、長野県は残念ながら他県に遅れている部分が正直多いのではないかと思うし、これから産業を元気にしていく上で、ITをどう活かしていけるのかという観点をしっかり持たなければならない。
- ・企画部がやるITの話なのか、商工労働部がやるITの話なのか、話を聞いていて、これは企画部ですとやっているが本当にそれでよいのか。IT関係で産業振興をやる場合、誰が中心となっていくのか、折角本部を作ったので、はっきりさせてほしい。
- ・健康福祉部のところは長野県の製造業において、健康・医療を産業としてどう育てていくかというのは極めて重要な視点となる。その時に健康福祉部的健康づくりの視点だけでは極めて弱い。健康・医療のところでは地域産業を育てていくという時に誰がどういう責任分担でやっていくのか、この際本部を作って、各部がそれぞれやっていますという話ではないように考えてほしい。
- ・環境部の自然エネルギー、省エネルギーの所は推進本部の検討事項にはほとんど出てきていない。自然エネルギー、省エネルギーは産業活動のベースでもあるし、それ自体産業として育てていかなければいけないので、是非そこはどのようにアプローチするのか、環境部目線だけではいけないと思うので、本部の中でしっかり方向付けをしてほしい。
- ・商工労働部はいつも産業振興の視点でやっているのだからこんな感じかなと思う。

- ・観光部は国際的な視点でグローバルな観点で日本の観光は遅れをとっていると思うので、そこをしっかりと改革できるように国の動きとも連動して取組んでいてもらいたいと思う。MICEの誘致は前から長野県として言っているが、どういう会議を誘致するのか、どれくらいの体制（会議場の施設や宿泊施設）を作っていくのか、なんでもウェルカムというわけには今の現状ではいけないというふうに思っている。本格的な国際会議を誘致するとなれば、それなりにやらなければならない。今ある施設でやっても、あまり広がらないと思う。そのあたりを踏み込んだ検討をしていく必要がある。
- ・農政部のところは、6次産業化は農政部中心にやってもらうのはよいが、他の部局との関連性がかなり出てくるので、どういう形を最終的に描いて、どういう連携体制でやっていくのか、しっかり意識してもらいたい。6次産業化の話も他の話もそうだが、なんとなくやっているのではなく、成果として何を求めるのかということ、しっかり意識して取組んでもらいたい。
- ・農産物の輸出のところはどこが調整するのか。農産物は農産物の輸出、伝統工芸品の輸出は商工労働部という感じでやっていると、全体としては調整が不足してしまう所が出てきってしまうと思うので、横串を刺さなければならないところの仕組みづくりや体制づくりは他の事項とも合わせてしっかりやってもらいたい。
- ・林務部の所のブランド化の話も同じで、林務部だけがブランド化をする話ではなく、県全体として何を一番押していくのかと、何が先頭ランナーでどれをそれとセットで発信していくのかという作戦がないと、各部がバラバラでこれはうちのブランドだとやってもしょうがないので、そこら辺の戦略をしっかり作ってほしい。
- ・木質バイオマスの話は新エネルギーの話とセットで考えていかなければいけない。
- ・教育・人づくりのところは、大学と行政と経済界とで円卓会議を作っていこうということも考えているので、しっかり動かしていてもらいたい。グローバル人材の育成ということも県立大学の議論の中でも色々出てきているので、スーパーグローバルハイスクールみたいな国の取組みには積極的に対応していてもらいたい。
- ・各部から報告してもらったものと、私の視点も含めて話をしたので、商工労働部の方で整理をしてもらえばと思う。
→本部には各主管課の課長をメンバーとした連絡会議があるので、推進体制、責任分担、横串の話はそこをベースにして調整を進めたいと思うので、各部長も議論に参加してほしい。（商工労働部長）

<その他（今後のスケジュールについて事務局から説明）>